

NEWS LETTER



2023年12月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第11号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 三宅達郎 編集 広報委員会



CONTENTS

- 第73回日本口腔衛生学会・学術大会のご案内
- 若手会員紹介リレー⑤
- LION AWARD 受賞者の喜びの声
- 大学／研究機関の教室紹介⑨
- 口腔保健事業振興賞を受賞して
- 日本口腔衛生学会 HP トピック
- 新任教授紹介
- 広報委員会より (編集後記)

第73回 日本口腔衛生学会・学術大会のご案内

【大会長】岸 光男 (岩手医科大学口腔医学講座予防歯科学分野)



日本口腔衛生学会会員の皆様、第73回日本口腔衛生学会学術大会の大会長を務める事になりました、岩手医科大学の岸 光男です。このような大役を仰せつかり、たいへんな名誉と同時に責任を感じております。しかし責任を感じるばかりでは話が先に進みませんので最近の若者がよく言うように、まずは自分が楽しめる大会にしようと総合テーマを思案しました。そして天から降ってきた言葉が「健康の伸びしろ」です。

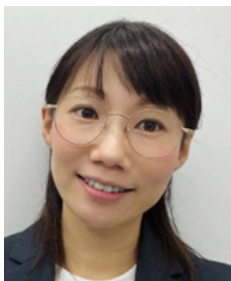
健康づくりは今より良い心身の状態になろうとする意思や行動のことであり、いわば“あすなる木”です。人によって今の状態は違っていても「明日、今日より少しだけよくなること」は等しく与えられたチャンスであり、伸びしろは可能性の大きさです。WHOが「健康とは単に疾病でないことではない」と謳って80年近くが経ちますが、今でもわれわれは病気やリスクを注視し、伸びしろに目を向けることが少ないように思います。

大会ウェブサイトは9月15日にオープンしました。ホームページにはポスターが掲載されており、そこで大会テーマとともに佇むのは木偶の坊人形という宮沢賢治を模したこけしです。あなたにはどう見えるでしょうか。人形は足元を見つめているでしょうか。それとも岩手山を見上げているでしょうか。

ポスターは岩手の作家、宮沢賢治にちなんでいますが、特別講演にはシェイクスピアの翻訳家で演劇評論家の松岡和子先生を迎え、物語で描かれる健康と病についてお話いただきます。他にも皆様とそして私自身が楽しむために、テーマに鑑みたプログラムを企画しています。懇親会も久しぶりに開催する予定です。会員が一堂に会する懇親会は2019年、滋賀県での第68回大会以来だと思います。

盛岡は2023年1月にニューヨークタイムスで「2023年に行くべき52か所」と題した旅行特集記事でロンドンに次ぐ2番目に選ばれました。盛岡城の城下町として発展した歴史あるコンパクトな街並みが評価されたようです。大会のある5月は新緑が映えて、城跡や川べりの散策には絶好の季節です。旬の山菜をはじめとしておいしいものもたくさんあります。盛岡は遠いと思われる方もいるかもしれませんが東京駅から東北新幹線に乗れば最速2時間10分で到着します。どうかご参加くださいますようお願い申し上げます。皆様方に盛岡でお目にかかれることを心より楽しみにしております。

LION AWARD 受賞者の喜びの声



Tongue cleaning maintains respiratory function in older individuals: A 1-year randomised controlled trial

泉 繭依 (九州歯科大学歯学部口腔保健学科)

この度は、2023年度日本口腔衛生学会学術賞「LION AWARD」を頂戴しまして大変光栄に存じます。日本口腔衛生学会の皆様、ご指導いただきました先生方、ご協力いただきました施設の皆様にご心より感謝申し上げます。

本論文「Tongue cleaning maintains respiratory function in older individuals: A 1-year randomised controlled trial. J Oral Rehabil 2021」は、介護保険施設の入所者を対象として、舌の清掃による呼吸機能への影響を明らかにした1年間の介入研究です。

本研究の結果として、日常の口腔ケアのみを続けた対照群の最大呼気流量（以下PEFR）[1.6 (0.4-4.2) 対 1.4 (0.4-3.2), $p=0.034$]と舌圧 [16.4 (1.7-35.2) 対 8.0 (1.4-38.6), $p=0.032$]は、ベースラインと比較して1年後に有意に減少しました。日常の口腔ケアに舌清掃を加えて実施した介入群では、PEFR [1.5 (0.8-2.9) 対 1.6 (0.7-4.2), $p=0.366$]と舌圧 [18.1 (4.2-37.1) 対 16.1 (5.2-41), $p=0.307$]は、1年後も機能の維持が確認されました。

これらの成果から、舌清掃を行うことは口腔環境の改善だけでなく、摂食嚥下機能に重要な舌および呼吸機能にも効果があることが明らかになりました。舌の清掃は、日常的に簡便に行えることから、オーラルフレイル予防としても要介護者に対しても摂食嚥下に関わる機能維持のリハビリテーションの手法として有用と考えます。

今回の受賞により、これまで舌と呼吸機能のリハビリテーションを断念せざるを得なかった認知症や寝たきりの高齢者に対して、容易に行える舌清掃の重要性を広く周知する契機となり、「口から食べる」期間を延長する一助となれば幸いです。また、本研究で用いた電子スパイロメーターによる呼吸機能評価は、医科歯科共通の評価項目として活用できることを示すことができました。地域包括ケアシステムにおける在宅中心の医療や介護、予防支援において、歯科でも摂食嚥下機能評価の一つとして簡易スパイロメーターを活用することで健康寿命の延伸に貢献できるよう今後も臨床研究に取り組んでまいりたいと存じます。



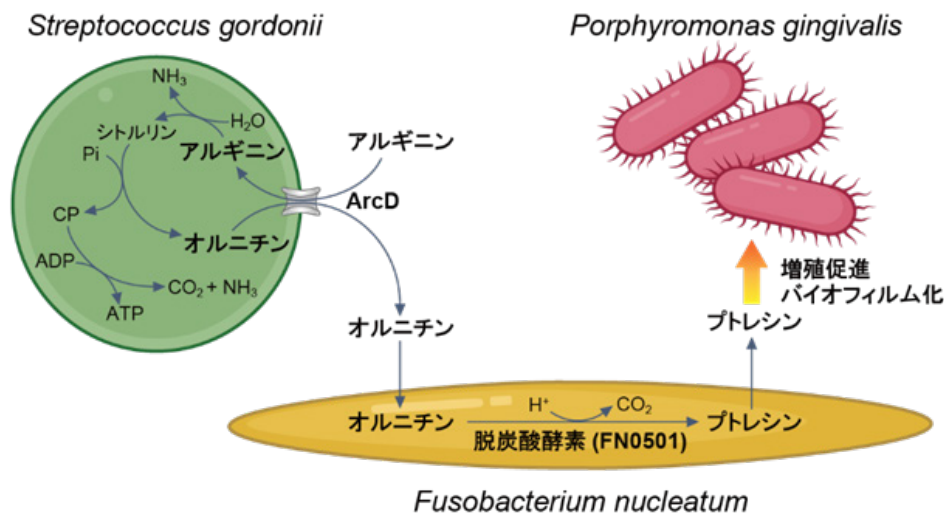


Fusobacterium nucleatum Metabolically Integrates Commensals and Pathogens in Oral Biofilm

坂中哲人 (大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座)

この度、2023年度の日本口腔衛生学会学術賞 LION AWARD を賜りましたことを大変光栄に思います。すべての関係者の皆様に、心からの謝意を表します。また、4年ぶりに対面で開催された学術大会で代表論文を含め取り組んできた研究テーマについて発表できたことも、非常にありがたく思います。5類移行から間もない時節でしたが、曇天から光芒の差す如く、長きに及んだコロナ禍を経て新しい日常への移り変わりを実感しながらの発表となりました。関係の諸先生方に厚く感謝申し上げます。

代表論文は、口腔バイオフィームの中での異種細菌間の相互作用とそれがもたらす代謝の変化、およびそれが歯周病に与える影響について報告しました。近年、歯周病はバイオフィームの「多即一」という二面性、即ち多の振る舞いが一つの機能として統合されるダイナミズムによって生じるとの理解が深まっています。特に *Fusobacterium nucleatum* は、その豊富な接着因子で多くの口腔細菌と結合する特性が知られていますが、本論文でわれわれは *F. nucleatum* の代謝特性が微生物共同体の栄養的なつながりを強化し、口腔バイオフィームの高病原化と歯周病の病態形成に寄与することを明らかにしました。今後は、代謝プロセスに焦点を当てたバイオフィームの科学的な管理手法を追求し、予防に重点を置いた歯科医療の発展に貢献できるよう努める所存です。





口腔保健事業振興賞を受賞して

高齢者福祉だけでなく、子育て支援にも目を向けたい

木村年秀（一般社団法人ことなミライ）



この度は、口腔保健振興賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。日本口腔衛生学会の関係各位に深く御礼申し上げます。一般社団法人ことなミライは、香川県随一の高齢過疎地域である、まんのう町琴南地区（人口1,894人、高齢化率52.8% 令和5年10月1日現在）において、「地域資源を活用し、住民の生活支援サービスを提供することで、すべての世代が輝く社会づくりに寄与すること」を目的として、2020年10月に設立しました。そして、2021年4月から2年間、廃校となった中学校を地域活性化拠点として改築した「ことなみ未来館」の運営管理を、まんのう町より指定管理者として委託されました。

当法人は、高齢者が移動手段を失い、買い物や受診、友人との交流の機会がなくなり、次第にフレイルに陥ってしまうことが地域課題であると考え、課題解決のため、民生委員など地域ボランティア、まんのう町国保造田歯科診療所のスタッフ、訪問看護師、ケアマネジャーなど多職種で協力して、買い物ツアーを毎月実施しています。買い物ツアーは、食材調達など買い物に困っている高齢者を自宅まで迎えに行き、集合した後に、みんなで大型バスに乗って提携する地元スーパーに行き、買い物を楽しむ。帰ってきて一緒にお弁当を食べるという企画です。コロナ禍では中止時期もありましたが、利用者数は延べ500名を超え、支援者を併せると1,000名以上が係るイベントとなりました。広いスーパーを歩き、美味しいものを一緒に食べて、おしゃべりする、究極の介護予防だと考えております。

また、法人活動の一環として、子育て支援もしてきました。町内には、子供が気軽に遊べ、子育て世代が安心して利用できる“居場所”がありませんでした。そこで、ことなみ未来館では、“子ども目線の空間づくり”、“スタッフが徹底して子どもと遊ぶ”をコンセプトに、ことなみ未来館の中に子供や親御さんが集まれるスペースをつくりました。利用者が100人を超える日もあるほどの人気でしたが、2023年3月末で施設の指定管理契約が終了し、活動は休止となりました。間もなく、町内の社会福祉法人から「当法人と共に、子育て支援にも目を向けたい」と休止中のデイサービススペースを無料で貸していただけるという有難いお声掛けがあり、本年11月から“新しい居場所”をスタートすることとなりました。

私たちはコロナ禍を経験することで、人が地域の中で健康に暮らし続けるために人とのつながりが大切であることを実感するようになりました。これからも、地域のさまざまな課題を解決していくことで、まちづくりに貢献してまいりたいと思います。



クリスマスの買い物ツアーの様子
香川県立保健医療大学の学生さんたちと記念撮影



みんなの居場所
「たかしの家」ホームページ

新任教授紹介



竹下 徹（九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防医学分野）

2023年4月1日付で九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防医学分野・教授を拜命致しました竹下 徹と申します。私は九州大学歯学部を卒業後、前任の山下喜久先生にご指導いただきながら大学院生、教員として18年にわたり本分野にて口腔常在微生物叢の理解と制御を目指し研究に取り組んでまいりました。当初私に与えられた研究テーマは口腔細菌群集を網羅的に把握する解析系の構築でしたが、その過程で分子生物学的実験手法、統計解析、プログラミング技術を習得するとともに、自分に必要なものを自由に学び誰も通っていない道を切り開いていく研究の楽しさを知ることができました。その後確立した解析系を用いて口腔常在微生物叢の疫学的調査を重ねることで目指すべき口腔常在微生物叢像がおぼろげながら見えてまいりました。現在は健康な口腔常在微生物叢を育成・誘導する新しい口腔保健管理手法の確立を目指し、日々教職員とともに模索を続けております。

今後は口腔常在微生物叢に限らず近年取得が容易になった口腔に関するさまざまな情報も併せて収集・分析・活用し、これまでなかった健康増進アプローチを提案していくことができると考えております。また、こうした研究活動をともに担ってくれる後進の教育にも一層励んでまいります。

浅学非才の身ではございますが国民の口腔の健康を守る活動と口腔衛生学・予防歯科学の発展に尽力して参る所存です。どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



岩崎正則（北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学講座予防歯科学教室）

2023年4月1日付けで北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学講座予防歯科学教室の教授に着任いたしました岩崎正則（いわさき まさのり）と申します。2006年に北海道大学歯学部を卒業後、新潟大学医歯学総合病院で臨床研修過程を修了し、新潟大学、アメリカ・ミシガン大学、九州歯科大学、東京都健康長寿医療センター研究所とさまざまな教育研究機関で予防歯科学、口腔衛生学、疫学に関する教育・研究を行ってまいりました。

私はこれまで主に「口腔の健康・機能と栄養・全身の関連」「歯周病と全身疾患（腎臓病、骨粗鬆症など）の関連」についての疫学研究を実施してきました。口腔の健康に関する疫学的指標、特に歯周病に関する指標は評価が複雑なものが多いのが現状です。広く誰もが使用でき、理解できる指標・ツールを作成することを目指しています。2021年にはアメリカのCenter for Disease Control and Prevention (CDC) と American Association of Periodontology (AAP) が共同で開発した歯周疾患の自記式質問票の日本語版（以下、CDC/AAP 質問票日本語版）を作成しました。さらにCDC/AAP 質問票日本語版をベースとした重度歯周病スクリーニングスコアを作成しました。4つの質問に回答することでスコアを算出でき、その範囲は0点～4点です。2点以上をカットオフとする場合、重度歯周病

を感度 73.1%，特異度 74.3% で検出できます。より詳しい説明は「職域等で活用するための歯科口腔保健推進の手引き 2022 年度版」の 70 ページをご覧ください。URL: https://www.8020zaidan.or.jp/databank/doc/syokuiki_tebiki_2022.pdf をブラウザに直接打ち込んでいただくか、あるいはここに示す QR コードからアクセスいただくことで、どなたでも閲覧可能です。なお、原文は「Iwasaki M, Usui M, Ariyoshi W et al.: Validation of a self-report questionnaire for periodontitis in a Japanese population. Scientific Reports 11: 15078, 2021」であり、こちらもオープンアクセスジャーナルなので、どなたでも閲覧可能です。

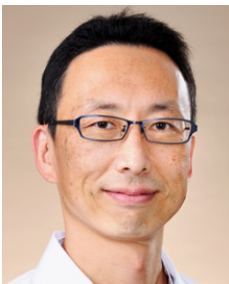


また現在、加齢に伴う口の機能の衰え：オーラルフレイルに関する国民啓発の推進と多職種連携の強化のために、その概念をさらにわかりやすいものとしてまとめる作業・研究を実施しています。

当教室は地域歯科保健活動のリーダーとなる人材を育成する教室です。道内の官公庁，保健所等で勤務する歯科医師，歯科衛生士の皆さまと密に連携し，地域保健のあり方をともに考え，必要に応じて行政で働く歯科関係者が改めて学び直す場として予防歯科学教室を活用できるように体制を整え，地域社会に貢献してまいります。

大学在学中，そして卒業し現在に至るまで素晴らしい教育・研究環境の中で，予防歯科学，疫学的重要性と面白さを学びました。この度 17 年ぶりに母校である北海道大学歯学部に戻る機会をいただきました。今後は，これまでに得られた知識・経験を伝え，地域社会や国際社会に貢献する使命感と責任感を身につけた人材を育成していきます。こうした人材育成においては，これまでに培ってきた歯学，医学，疫学，栄養学，運動学等の専門家，および行政で働く歯科関係者との関係性を活用することで幅広い視点から最新の知見を取り入れることのできる環境を提供していきます。

以上のことをもって，私は日本口腔衛生学会の一層の発展のため，尽力していきます。皆様のご指導とご支援を賜りますよう，よろしく願いいたします。



江國大輔（岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野）

「私，生まれも育ちも岡山県岡山市です。国立病院で産湯を使い，姓は江國，名は大輔，肩書は 2023 年 8 月 1 日付で，岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野の教授になりました。」と書きますと，昭和レトロなのでしょうか。

平成 9 年，岡山大学歯学部の最終学年で，「予防歯科が大切！」と思い立ち，岡山大学歯学研究科・予防歯科学講座に進学しました。その後，渡邊達夫先生・森田 学先生をはじめ，多くの方に支えられながら，「公衆衛生・歯科疾患の予防・酸化ストレス・栄養・細胞外小胞・スクリーニング・行動科学・口腔細菌叢・フレイル・DX・実装」をキーワードに，Epidemiology と basic science の二刀流で研鑽してまいりました。現在は，岡山大学病院歯科・予防歯科部門の部門長およびお口の健康管理センター（口臭外来・歯科ドックを含む）のセンター長も兼任しております。

さて，「隴を得て蜀を望む」という諺があります。令和は，さまざまな〇〇欲が増えているそうです。私もさまざまな欲があります。「もっと簡単な検査は？」，「もっと簡単な歯磨きは？」，「もっと先の健康予測は？」，「もっと手軽な予防法は？」，「もっと笑顔を増やすには？」など，尽きません。これらについて，皆様のお力添えとともに，一つずつ叶えていきたいです。

豊かな未来のために，誰一人取り残さない世界のために，口腔衛生学会ならびに歯科界の発展のために尽力していきたいと思います。今後とも何とぞ倍旧のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

若手会員紹介リレー⑤



財津 崇（東京医科歯科大学）2006年東京医科歯科大学歯学部卒業，2011年東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了

→種村 崇先生（静岡県健康福祉部健康増進課）2011年長崎大学歯学部卒業，2023年東京医科歯科大学大学院医歯学総合博士課程修了

若手会員紹介リレーの今回の担当は、東京医科歯科大学の財津です。私が紹介するのは、静岡県健康福祉部で活躍されている行政歯科医師、種村 崇先生です。種村先生は長崎大学を卒業後、2011年から2017年までは陸上自衛隊の歯科医官を務め、2018年からは静岡県健康福祉部で勤務をしております。これまで労働者の環境について研究を行ってきており2023年に東京医科歯科大学で博士号を取得しました。学位テーマは日本人労働者の労働時間と口腔関連 QOL として Journal of Oral Science に報告されています。現在は、静岡社会健康医学大学院大学の修士課程に在籍し、公衆衛生のマスター（MPH）の取得を目指しつつ、県の保健医療計画や健康増進計画、歯科保健計画の策定などの重要な業務を行っています。2022年からは、国の支援を受けて、大学院などと協力し、歯科医療の課題を分析し、エビデンスに基づく政策の推進や医科歯科の連携を深める取り組みをしています。行政における有望な若手として、今後の更なる活躍が期待されます。次は種村先生にバトンをお渡しします！

連載

9

大学／研究機関の教室紹介

第9回は朝日大学歯学部口腔感染学講座社会口腔保健学分野のご紹介です。

友藤孝明（朝日大学歯学部口腔感染学講座社会口腔保健学分野）



1. 沿革

朝日大学歯学部口腔感染医療学講座社会口腔保健学分野は、1971年に岐阜歯科大学歯学部口腔衛生学講座としてスタートしました。初代教授可児瑞夫先生をはじめ、二代目教授可児徳子先生、三代目教授磯崎篤則先生は、地域におけるフッ化物応用の普及に尽力されました。その結果、50年以上経過した今でも、フッ化物洗口の

文化が地域の小学校等で根付いています。

そして、2017年より筆者が四代目教授として赴任しました。2023年11月現在の分野構成は教授1名（友藤孝明）、准教授1名（東 哲司）、講師1名（岩井浩明）、助教2名（米永崇利、笹井保之）です。また、客員教授2名、非常勤講師17名、大学院生2名、専修生2名在籍しています。これらのメンバーで教育、研究、地域貢献を行っています。



2. 教育

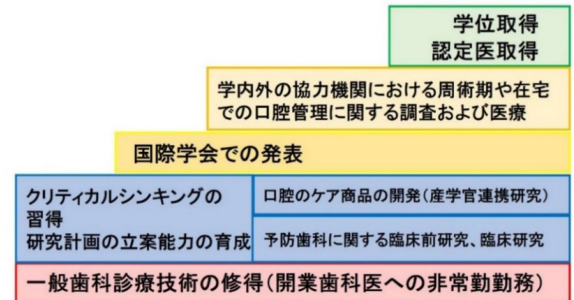
歯学部教育において、私たちが担当している主な教科は下記の通りです。

- 1 学年：地域社会と歯科医療 I 実習（15 コマ）
- 2 学年：公衆衛生学（20 コマ）
- 3 学年：口腔衛生学（24 コマ）、口腔衛生学実習（8 コマ）
- 4 学年：社会歯科学（24 コマ）
- 5 学年：総合歯科医学 I（8 コマ）
- 6 学年：総合歯科医学 II（20 コマ以上）

また、臨床歯科研修医への教育では、学校歯科健診時に必要な知識と技能の習得を目的に実習形式の教育を行っています。

さらに、歯学研究科での教育では、すべてのライフステージにおける歯・口腔の健康の保持、増進に必要な知識と技能を有する専門医を育成することに力を入れています。

1年 ➡ 2年 ➡ 3年 ➡ 4年 ➡ 卒業



3. 研究

疫学研究と臨床研究を主に行っています。

1) 疫学研究について

私たちは、朝日大学病院総合健診センターで歯科健診の業務を担っています。そこでは、年間 1,500 例以上の歯科健診データと 10,000 例以上の医科健診データが集まります。近年では、成人期における咀嚼状態と全身の健康状態との関連に着目して、分析を行っています。

岐阜県では、後期高齢者を対象にした歯科健診が毎年行われています。そして、令和 5 年度まではモデル市町村に限定されていた歯科健診データのデジタル化が、令和 6 年度からは県内すべての市町村で行われます。私たちは、デジタル化された歯科健診データと国保データベースとの突合解析を用いて、高齢者の口腔機能と全身の健康状態との関連を解明しています。

また、上記のデータ解析等に、AI を活用するための研究も進めています。

2) 臨床研究について

成人期における歯科疾患の予防を念頭においた臨床研究を行っています。例えば、オリゴ糖の一種であるサイクロデキストランにグルカン合成阻害作用があることに着目して、歯科疾患の予防効果のある口腔のケア商品を、産学連携や他大学との共同研究で開発しています。また、口腔内への有効成分の投与方法について、フリーズドライ加工を応用することを検討しています。

「金を残すは下、名を残すは中、人を残すは上」という理想的な組織のトップの生き方を示した名言があります。この言葉は、教育者のあるべき姿に通じます。すなわち、私のミッションは、朝日大学において、社会口腔衛生学（社会系歯科学および予防歯科学）の学問や臨床、および地域活動を担う次世代の「人を残す」ことであると考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

日本口腔衛生学会HPトピック

- 2023.10.04** 日本学術会議の健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会からの報告「加熱式タバコの毒性を知り科学的根拠に基づく施策の実現を」が公表されました。
- 2023.10.03** 第73回日本口腔衛生学会 学術大会のご案内を掲載しました。
- 2023.09.12** 「第73回学術大会の企画講演・シンポジウム募集について」を掲載しました。（会員専用ページ）
- 2023.09.11** 第5回禁煙推進学術ネットワーク学術会議（10月1日）について
- 2023.09.01** 意見・回答に「乳幼児期における親との食器共有について」を掲載しました。

編集後記 広報委員会より

NEWS LETTER vol.11 は須磨紫乃（九大）、久保庭雅恵（阪大）、天野敦雄（阪大）が編集担当でした。ご寄稿をお願いした先生方は締め切りをきっちりお守りいただき、玉稿をお送りいただきました。お陰さまでスムーズな編集作業ができました。先生方に多謝深謝です。